

中秋の月

過ぎてゆく季節の
痛み感じて
そっと撫でる手のように
やさしく照らす

風のない空気まとして
月はゆっくりと満たされて
薄い雲一筋
レース越しのように

どこか遠い昔の日々の
気配含んでいるような月が
あの頃にできなかったことを
そっと集めて教えてくれる

こんなにも暖かく
怖いほど眩しくて

過ぎてゆく季節の
痛み感じて
そっと撫でる手のように
やさしく照らす

道端のススキ 光受けて
銀の羽を開き
その影までもやさしく
揺らす風と共に

どこか遠い昔の日々の
気配含んでいるような月が
あの頃に言えなかったことを
そっと集めて慰めてくれる

こんなにも暖かく
怖いほど眩しくて